

# しずはら

平成30年 第21号（平成30年3月号）

〒601-1121  
京都市左京区静市静原町582番地の1  
社会福祉法人 松光会  
特別養護老人ホーム 静原寮  
TEL075-741-2866/FAX075-741-1761  
<http://www.shizuhararyo.com>  
E-mail [shizuhararyo@kyoto.zaq.ne.jp](mailto:shizuhararyo@kyoto.zaq.ne.jp)  
発行責任者/ 奥本喜裕

少し前のことになりますが、帰りがけに突然車のエンジンがかからなくなったことがありました。セルモータの動きが鈍く、それでもその時は何回か試してかかったのですが、しばらく運転してから一旦エンジンを切ってもう一度試してみると、今度はセルモータも回りません。朝運転した時は何事もなかったのに訳が分からなくなりましたが、そのうちに何かがいとも違っていることに気が付きました。そこで車のドアを開ける所から、いつもの通りやり直してみました。ドアを開けて、運転席に座り、サイドブレーキとギアの位置を確認して、ブレーキペダルを踏んで…今度は普通にエンジンがかかりました。それで全て理解できました。アクセルペダルを踏んでいたのです。その日は寒い日で、朝、少しエンジンがかかりにくい気がしたので、次の日遠出することもあって、念のために丁寧にエンジンをかけようとしてアクセルを踏んでいたのです。以前の車は、オートマチック車でも、軽くアクセルペダルに足を載せてエンジンを始動させるのが当たり前でした。けれども今のオートマチック車は、誤発進を防止するためにブレーキペダルを踏んでいなければエンジンはかかりません。今の車に乗るようになってずっとそうしてきたはずなのですが、慎重にしようとするあまり、以前は常識だった方法でエンジンをかけようとしていたのです。

同じようなことは様々な場面で経験します。一度身に着いた知識や技術を私たちは所与のものとして疑いなく使い続けますが、実際には一旦開発され、確立された仕組みや、知識や技術、そこで常識とされていたことは、時が経過するにつれ社会のニーズの変化に伴って変化していきます。それに対応していくためには、変化を正確に理解し、受け止めて新しい対応の仕方を取り入れていく必要があります。これは、私たちの携わる介護サービスについても同様で、介護観や制度は刻々変化していて、かつての常識が今は通用しないこともしばしばみられます。一旦身に着けた知識や技術、介護観までも、常に検証し新しい情報を取り入れ、更新していく必要があります。知識や技術は確立した瞬間から劣化が始まります。

介護保険制度は近い将来超高齢社会の中で大きな課題となる介護を社会で受け止める仕組みとして導入され、前世紀の終わりに整備された介護サービス群を背景にスタートしたのですが、当初は施設の作り方や介護機器、その基本となる介護観も、介護を効率的にこなすことに重点が置かれ、利用者はあくまで介護サービスの客体であって、生活の主人公としての視点は必ずしも重視されていませんでした。制度発足後時を経て、介護観も変化し、制度や法令も改正を重ねる中で、制度の中でも生活者としての利用者に目が向けられ、サービスの質を担保するために様々な工夫が凝らされるようになってきました。今回の介護保険制度改正でも、医療やリハビリ等、関連領域との連携や予防の視点が強調される改正になっていて、そこには社会保障関連費用の抑制という思惑は見え隠れするものの、制度の利用者にとってはより多様な選択肢が示されるようになったということではできると思います。

介護保険制度の理念である「尊厳」と「自立支援」そのものも、その意味付けや具体的な実践は、制度が展開する中で徐々に形を変えて新しいサービスの形を提示してきました。同じく「尊厳」と「自立支援」を理念に謳う静原寮でも、日々ご利用者との関わりの中で、その意味を確認し具体的なあり方を検証し、新しいサービスの形を作る努力を怠らないようにしていきたいと思えます。



写真のランナーは施設長の奥本です。

## 西館紹介

静原寮の西館は創設当初からあり、49名のご利用者が生活されています。春夏秋冬の季節の催しや、喫茶、レクリエーションがある時には、職員一丸となってご利用者に楽しんで頂けるように頑張っています。

これからもたくさんの[笑顔]が見られる様に頑張っていきたいと思



## 東館紹介

東館は平成15年に増築された建物で、51名のご利用者が生活されています。職員は日々、生活のお手伝いをしながら、買い物に出かけたり、外食に行ったりしています。

施設内には桜の木があり、春になるとキレイな桜が咲きます。桜の木の下でお茶会を開いたり、季節に合わせた催しを行っています。



# 静原神社春の祭

静原の中心にある静原神社は、社伝によると古墳時代に山城志津原に造営され、飛鳥時代に天武天皇が遂後に襲われた際、この地で心身を静められたことから、「静原」と称したと言われています。

神輿巡行では、白装束の男性たちがこの静原神社と静原寮の近くにある下の社（天皇社）を巡ります。

この祭祀が始まったのは711年と言われ、毎年5月3日に開催される今なお続く伝統ある「春の祭礼」です。





8月に、毎年恒例行事になっている納涼祭を行いました。地元の小学生の太鼓演舞から始まり、職員は射的、お好み焼きや、焼き鳥などの屋台を出店しました。ご利用者やそのご家族、職員も家族を連れて参加し、大いに賑わいました。来年も、より多くの方々に楽しんで頂けるように頑張ります！



**施設の敷地内には畑があります。びわの木やすももの木もあります。毎年10月には、恒例の芋ほいを行っています。昨年も、職員とご利用者で、たくさんの芋を掘り起こす事が出来ました。掘った芋は、後日、調理をしておいしくいただきました。**



# ホームページのご紹介

あんまり知られていませんが、実は、静原寮にはホームページがあるんです。  
ここでは、ホームページを紹介させていただきます。

アドレスは、<http://www.shizuhararyo.com> です。

「静原寮」で検索すると、すぐにお分かりいただけると思います。

不定期ではありますが、  
「しずはら通信」でスタッフブログを更新しておりますので、  
そちらもどうぞご覧下さい。



社会福祉法人 松光会 特別養護老人ホーム 静原寮 | 京都市左京区静原市

HOME | アクセスマップ | お問い合わせ | サイトマップ



静原の自然に囲まれ、余裕に満ちた空間だからこそ、人と人が豊かな言葉をゆき交わす。

大自然に囲まれたこの静原での新生活を、第二第三の人生へのスタートという意識で生きる喜びを見つける心のゆとりを持ち、ある人は活力ある毎日、ある人はおだやかな日々を送る。そのような場所であってほしい……

## お知らせ

2017. 1.10 職員を募集しています

## しずはら通信

2017.11.28 春に結えたサツマイモの収穫を行いました。  
2017.10.25 西1職員紹介  
2017.10.24 平成29年 納涼祭の様子  
2017. 9.17 静原寮新人職員紹介！！  
2017. 8.20 静原寮納涼祭のお知らせ  
2017. 7.28 東2フロア紹介  
2017. 7.26 東1フロア紹介(新)  
2017. 6.21 あじさいを作ろう!!  
2017. 6.18 6月11日クラリネット演奏会&6月18日京大  
2017. 5.28 芋の苗植えNOW(へっ)  
2017. 5.19 五月晴れ喫茶開催！！  
2017. 5. 3 静原春祭り  
2017. 4.23 玄関前で利用者様とお花見しました  
2016.12.20 ものすくくふりの更新です  
2015. 8.19 雄琴温泉の足湯に行きました  
2015. 6.20 大原道の駅に行きました  
2015. 4.10 お花見をしました  
2015. 1. 2 お正月  
2014.12.25 クリスマス会をしました  
2014.12.13 大根収穫!!

## 静原の魅力

▶ 情報公開

▶ パンフレット・広報誌

▶ 各種書類ダウンロード

HOME | 静原寮のご案内 | お知らせ | アクセスマップ | お問い合わせ | サイトマップ

社会福祉法人 松光会特別養護老人ホーム 静原寮  
〒601-1124 京都市左京区静原市静原町582番地の1 TEL: 075-741-2868 FAX: 075-741-1761

Copyright(C) 2010 Shizuhararyo All Rights Reserved.

## 介護主任 渡邊より

初春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご挨拶が遅れましたが、今年度より介護主任に就任しました渡邊守と申します。

私が静原寮で働き始めて早や十数年。介護職を取り巻く状況にも変化がありますが、大きな問題として人手不足という事が挙げられます。

人手不足という問題は、どの業界でも課題ではあると思います。介護の仕事のイメージはきつい・きたない・給料低いと言った、所謂3Kで表される事もありますが、その様な中でもこの仕事にやりがいを持ち、やってよかった介護職と思ってもらえるような、働き易く、働き甲斐のある職場作りをおこなっていきたいと考えております。

介護は、ご利用者に係る色々な事象が複雑に関係し合っていたり、自分の仕事の結果が一目で瞭然とするものではありません。そこにこの仕事の難しさがあると思います。そこで私が敬愛はしていない、心のお師匠、孫子の言葉より『彼を知り、己を知れば百戦して危うからず』を紹介すると共に、介護に当てはめて考えて見ようと思います。「彼を知り」とはご利用者の事、「己を知り」とは自分の知識や介護技術など、「百戦」は介助。言葉だけを合わせれば「ご利用者の事を良く知り、自分の知識・技術を駆使すれば介助も危うからず」です。

ご利用者の事を知る、自分自身の事を知るという事は簡単な様でいてその実、意外と複雑で難しい事です。複雑な事や難しい事を継続して行くことはこれもまた困難な事です。それらの複雑、困難な事をSWOT分析を用いて、強み・弱み・機会・脅威に分類して考えていく事で、複雑な物事を細分化し、シンプルな事象の複合としてスタッフに考えていってもらい、という事を促していく等して、仕事のやりやすさや、簡素化を図っていく事で働き易さ、働き甲斐のある職場作りの一環としつつ、専門性を高めていこうと思っています。乱文乱筆失礼致しました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。